

婦人有権者

主張

藤田・久米両氏より報告会より

国連総会よりかえって

同盟の立場と目的
「いまは日本、世界の婦人有権者として
婦人の問題を正しく理解して
婦人の問題を解決するための運動を
進めていきたい」と藤田・久米両氏

児童の権利宣言採択
才十四回総会の成果

去る九月十五日に開会された第十四回国連総会は十二月十二日の最終日、夜を徹して討議をつづけ議事一切を無事終つて、十三日午前四時十分（日本時間同日午後六時十分）その幕を閉じました。三ヶ月にわたる会期中、加盟八十二ヵ国連首相の演説をはじめとして完全軍縮問題や日本の経済社会理事会非常任理事国選出、また児童の権利に関する宣言採択など、平和への道を開くため、三度、政府代表として総会の報告書が十二月十九日東京WCAで開かれましたのでその要旨を伝えたいし

中央委員会を終つて

会長 藤田たき

幹事長

田中

久米

藤田

久米

婦人有権者

王
張

昭和36年1月28日 第38回 通国會再会

出席して思ふ
東南アジア婦人會議に

院の勢力分野	
院	135
16	11-3
144	250
301	16-3
467	1
議院	1
自社民共無	合計

院の勢力分野

(1月26日現行)

院の勢力分野

(1月